

することが必要と考えられる。

なお、いずれの年次においても、機械除草処理を行うとやや減収する傾向がみられた。裸地栽培に伴う夏季の高地温・乾燥、あるいは機械除草処理に伴う地下部の損傷が植物体に影響を与えた可能性が示唆された。

4. 謝辞

本研究は農林水産省委託プロジェクト研究「多収阻害要因の診断法及び対策技術の開発」により実施した（大谷

ら 2022）。研究成果をもとに「薬用作物カンゾウ、トウキ、センキュウ栽培における機械除草マニュアル」が作成されているので参照されたい（農研機構 2020）。

引用文献

- 菱田敦之 2017. 薬用作物栽培における除草剤の必要性和登録拡大. 植調 51(5), 139-142.
石田茂樹・下名迫寛・宮本啓二・松田清明・山島由光・白旗雅樹 1995. 畑作用用株間除草機の除草性能：(第1報) 覆土作用による除草効果. 農作業研究 30(3), 191-198.
厚生労働省 2016. 希エタノールエキス定量法. 第十七改正日本薬局方. 122.

農業・食品産業技術総合研究機構 2020. 薬用作物の機械除草マニュアル ～カンゾウ、トウキ、センキュウ～. 2020年3月, 36-56.

大谷正孝・西原正和・植松猛・浅尾浩史 2022. 薬用作物ヤマトトウキ (*Angelica acutiloba* Kitagawa) 栽培における機械除草の検討. 雑草研究 67(2), 64-69.

山本豊・黄秀文・佐々木博・武田修巳・樋口剛央・向田有希・森祐吾・山口能宏・白鳥誠 2019. 日本における原料生薬の使用量に関する調査報告. 生薬学雑誌 73(1), 16-35.

田畑の草種

透かし田牛蒡(スカシタゴボウ)

(公財)日本植物調節剤研究協会
兵庫試験地 須藤 健一

書店で「植物図鑑」という名を見て衝動的に手に取った。ところが中は図鑑などではなく活字ばかりが並んだ小説。これは何、と目次を見てみると「1. ヘクソカズラ, 2. フキノトウ/フキ そしてツクシ, ... 4. 春の野花—タンポポ, イヌガラシ, スカシタゴボウ」と続く。しかも一つひとつの植物名にはイタリックではないが学名が綴られていた。図鑑ではなかったのに戻したが、考えてみれば手に取った冊は生物・植物・図鑑といった冊ではなく一般書の冊であった。

「植物図鑑」は有川浩のライトノベルである。ある冬の晩、さやかという女の子がマンションの前でお腹を空かしているイツキという男の子を拾って(家にあげて)、それからルームシェアが始まる。ある時イツキがさやかを「狩り」と称する野草採集に誘う。採集してきた野草をイツキが料理し、「美味しい」と味わうさやかであるが、その野草の中にタンポポの天婦羅がありイヌガラシのお浸しがあり、そしてスカシタゴボウの胡麻和えがあった。そんな風にして21種の野草(木本として唯一ハナミズキが取り上げられている)を摘んできて料理したりお茶にしたりあるいはそのまま食べてみたりするお話である。

著者自身も「この本が図鑑のコーナーに並ぶケースがある」かもしれないというリスクなタイトルであることを認めている。およそ「図鑑」として見るなら表紙と裏表紙の見返しに取り上げられた種のカラー写真が載せられていることと、分類のための区別点などが物語の中のお話として述べられていることであろうか。

スカシタゴボウが食べられることは佐合隆一氏の「救荒雑草」にもあるが、レシピとなるとなかなか見つからない。「植物図鑑」にもいくつかのレシピがあるがスカシタゴボウのレシピは

ない。ネットで検索するとナズナやカラシ菜のレシピに行きつく。おおよそ同じ調理法でいいのかもしれない。

スカシタゴボウはアブラナ科イヌガラシ属の冬生の一年草。全国の畑地、樹園地、畦畔などやや湿った場所で生育する。背丈は20cmから70cmほど。葉は普通、頭大羽状に中裂し不規則な鋸歯があり、基部に耳形の突起があり小さく茎を抱く。葉の切れ込みも深裂から浅裂まで多様でいくつかの変種に分けられている。花は、花弁が2-3mmの黄色十字形花。果実は長さ5-7mm、幅2-3mmでやや湾曲し、他のイヌガラシ属のものよりずんぐりとしている。種子は隔壁で2室に分かれジグソーパズルのように隙間なく並ぶ。葉の切れ込みと果実が見分けるポイント。

